

2017年2月

2016年冬季「物価と消費に関するアンケート」結果
「暮らし向き」「世帯収入」とともに良化するも、先行きは不透明
フィンテック、認知度は若い年代ほど高く、利用は30代が中心

㈱滋賀銀行のシンクタンクである ㈱しがぎん経済文化センター（大津市、取締役社長 中川 浩）は、滋賀銀行の店頭にご来店の女性を対象に「2016年冬季・物価と消費に関するアンケート」調査を行い、その結果をまとめた。

また、特別項目として「インターネット利用とフィンテックについて」の調査も行った。

【調査の概要】

- ・調査名：「2016年冬季・物価と消費に関するアンケート」
- ・調査時期：2016年12月13日(火)～15日(木)の3日間
- ・調査対象：滋賀銀行の本支店にご来店の女性（県内在住者のみ）
- ・有効回答数：699人

うち29歳以下：107人、30代：123人、40代：193人
50代：154人、60歳以上：122人

【調査結果の要旨】

1. 定例項目

- (1) **【暮らし向きDI】…1年ぶりに良化。今後は悪化の見通し**
 - ・現在の「暮らし向きDI」は-9.3で、前回(-16.6)から+7.3ポイントと大幅に良化。
 - ・半年後は-19.6で、現状から-10.3ポイントと前回の水準を超えて大きく悪化する見通し。
- (2) **【世帯収入DI】…1年半ぶりに良化。今後は悪化の見通し**
 - ・現在の「世帯収入DI」は-4.8と前回(-11.2)から6.4ポイント改善し、1年半(3期)ぶりに良化。
 - ・半年後は-13.4で、現状から8.6ポイント低下し、再び悪化に転じる見通し。
- (3) **【物価DI】…上昇し、1年ぶりに+70を上回る**
 - ・現在の「物価DI」は+72.8で、前回(+67.6)から5.2ポイント上昇し、1年ぶりに+70を上回った。
 - ・半年後は+68.0で、現状から-4.8ポイントとやや低下する見通し。
- (4) **【耐久消費財の購入】…“(やや)良くなる”1割を下回り、厳しい状態続く**
 - ・「良くなる」「やや良くなる」の合計が8.2%と、前回(7.5%)から0.7ポイント増加したものの、引き続き1割を下回った。「悪くなる」「やや悪くなる」の合計は29.4%で、前回(32.2%)から2.8ポイント減少。
 - ・「変わらない」は62.4%で、前回(60.3%)から2.1ポイント増加。依然、厳しい状態が続く。
- (5) **【世帯の消費行動】…強い「預貯金、投資」志向続く。節約意識は幅広く**
 - ・「増やしたいもの」は、「預貯金、投資」が66.5%。次いで「子どもや孫の教育費」(34.0%)、「旅行、レジャー」(30.1%)、「趣味、教養、自己啓発費(習い事など)」(23.2%)が続いた。
 - ・「減らしたいもの」は、「食料品(日々の食費)」「外食」が最も多く(ともに56.9%)、次いで「光熱・水道費」(56.2%)で5割を、「衣類、ファッション」「通信費」で4割を超えた。

2. 特別項目：インターネット利用とフィンテックについて

- (1) **インターネット利用は「自宅のパソコン」「スマートフォン」を併用**
 - ・インターネット利用時の使用端末について、全体では「自宅のパソコン」(71.9%)が最も高く、次いで「スマートフォン」(68.7%)となった。
 - ・年代別では、「60歳以上」を除くすべての年代で「スマートフォン」「自宅のパソコン」割合が突出して高い。「40代」は「自宅のパソコン」(82.4%)、「スマートフォン」(81.3%)ともに使用割合が全世代1位。
- (2) **フィンテック「知っている」は「29歳以下」が他の年代を大きく上回る**
 - ・フィンテックについて、全体では「名前も内容も知っている」(7.2%)は1割に満たず、「名前は聞いたことはあるが、内容は知らない」(19.7%)と合わせると26.9%となった。
 - ・年代別では、「名前も内容も知っている」「名前は聞いたことはあるが、内容は知らない」とともに「29歳以下」が最も高く、いずれも2割を超えて他の年代を大きく上回った。

(次ページにつづく)

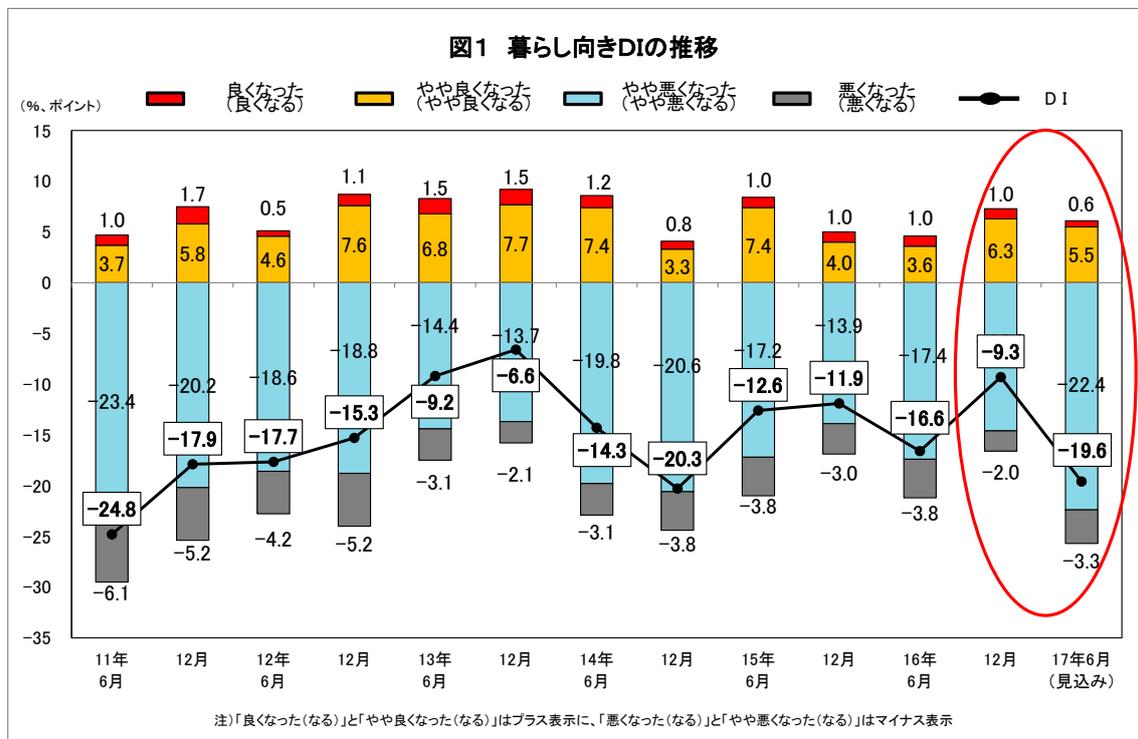
- (3) フィンテックのサービス、「認知度」は若い年代ほど高く、「利用経験」は「30代」が高い
- ・フィンテックのさまざまなサービスについて、「知っているか」(認知度)、「利用したことはあるか」(利用経験)を尋ねたところ、全体では認知度、利用経験ともに「ネットバンキング」(それぞれ62.3%、39.9%)が最も高く、次いで「送金・決済サービス」(それぞれ45.7%、13.9%)となった。
 - ・年代別では、認知度、利用経験いずれも、すべての年代で「ネットバンキング」が最も高くなった。認知度では、「60歳以上」を除くすべての年代で「ネットバンキング」が6割を超えてトップ。「60歳以上」のみ4割弱であった。利用経験では、すべての年代で「ネットバンキング」が最も高くなった。「60歳以上」を除くすべての年代で4割を超え、「60歳以上」は2割弱にとどまった。
- (4) フィンテックを「知らない」「利用したことがない」は「60歳以上」が特に高い
- ・全体ではフィンテックを「知らない」(34.9%)は3割超、「利用したことがない」(51.0%)は約5割となった。
 - ・年代別にみると、「知らない」「利用したことがない」いずれも、「60歳以上」の割合が突出して高く(それぞれ59.0%、80.3%)、他年代との差が大きい。逆に最も低いのは「30代」(それぞれ27.4%、38.7%)となった。

1. 定例項目

(1) 【暮らし向きDI】…1年ぶりに良化。今後は悪化する見通し

現在(2016年12月)の「暮らし向きDI」(「良くなった」「やや良くなった」と回答した割合から「悪くなった」「やや悪くなった」と回答した割合を引いた値)は-9.3となり、前回(16年6月:-16.6)から+7.3ポイントと、1年ぶりに大きく良化した。

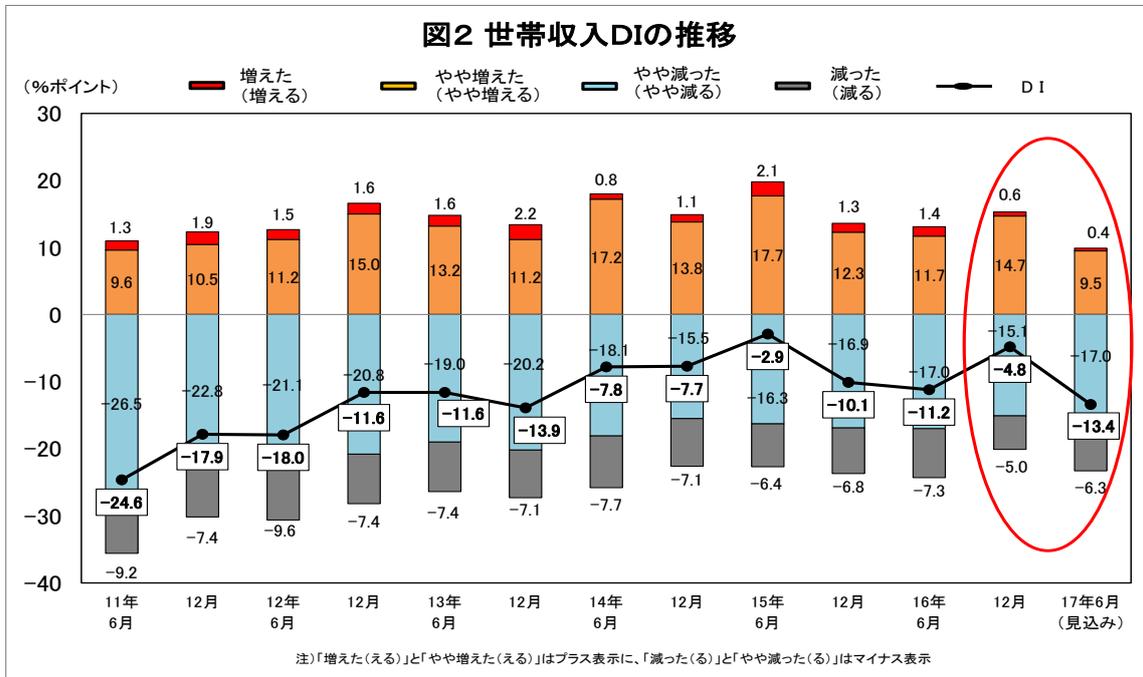
半年後については、「やや悪くなる」が大幅に増加し、全体では現在から10.3ポイント低下の-19.6と、前回の水準を超えて大きく悪化する見通しである。



(2) 【世帯収入DI】…1年半ぶりに良化。今後は悪化の見通し

現在の「世帯収入DI」（「増えた」「やや増えた」と回答した割合から「減った」「やや減った」と回答した割合を引いた値）は-4.8で、前回（16年6月：-11.2）から6.4ポイント改善し、1年半（3期）ぶりに良化に転じた。

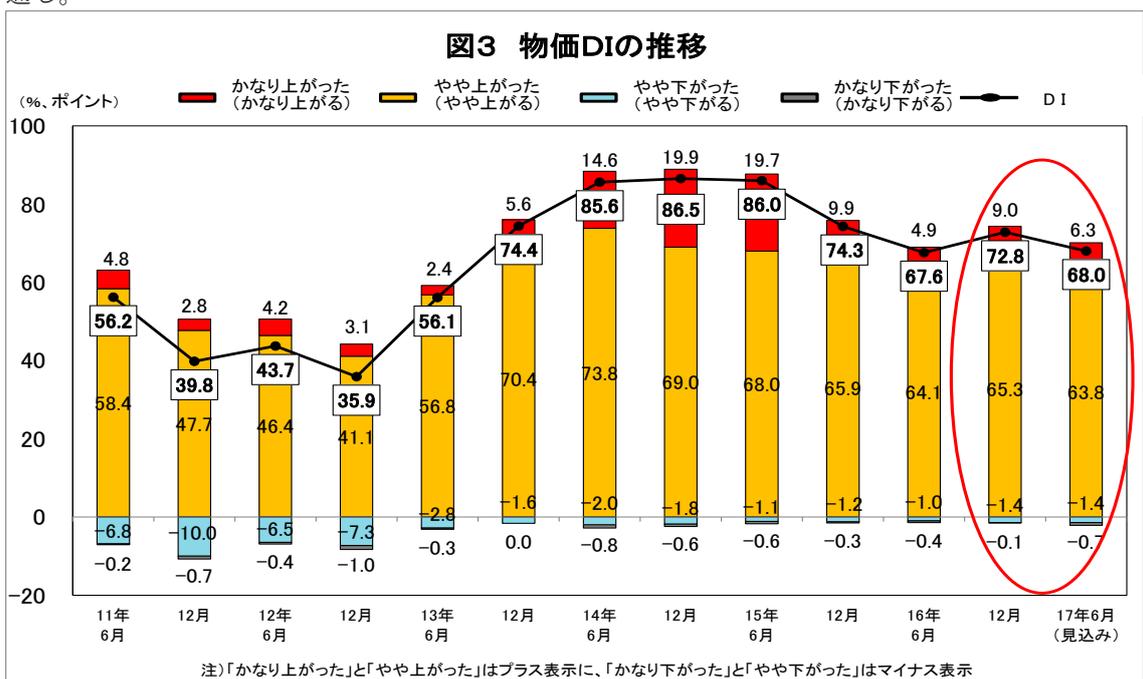
半年後の「世帯収入DI」は-13.4で、現状から8.6ポイント低下し、再び悪化に転じる見通しである。



(3) 【物価DI】…上昇し、1年ぶりに+70を上回る

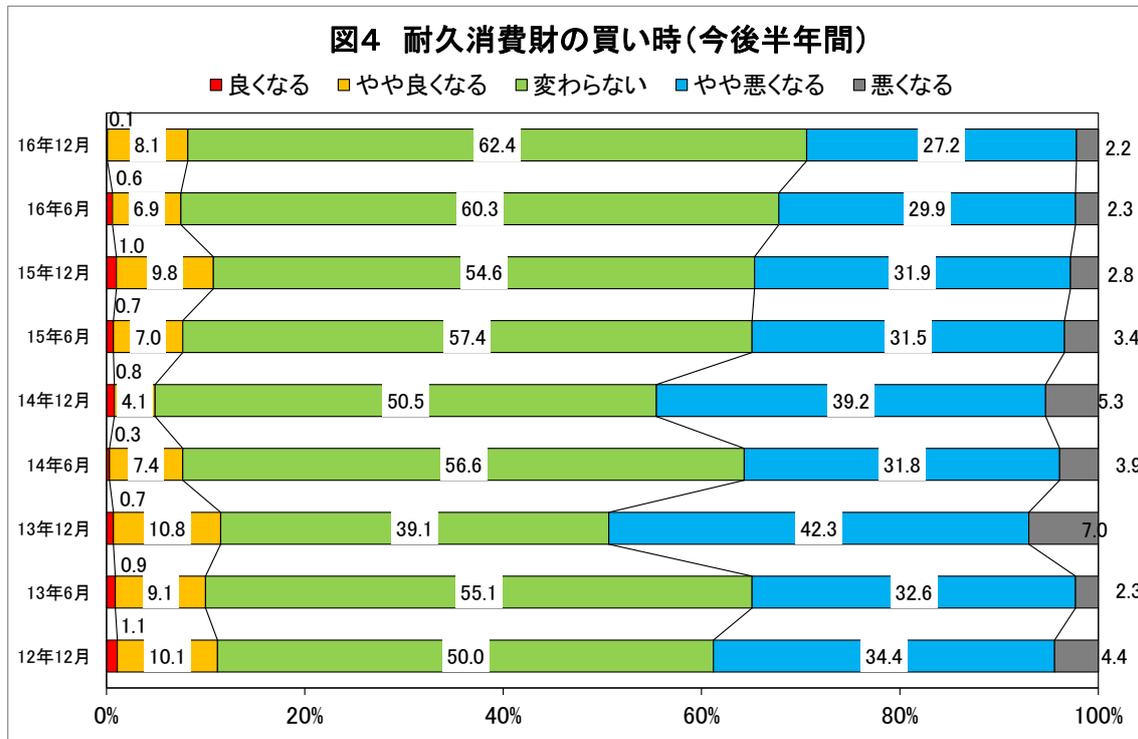
現在の「物価DI」（「かなり上がった」「やや上がった」と回答した割合から「かなり下がった」「やや下がった」と回答した割合を引いた値）は+72.8となった。前回（16年6月：+67.6）から5.2ポイント上昇。前回まで3期連続で低下し、前回丸3年ぶりに+70を下回ったが、今回再び+70を上回った。しかし、「かなり上がった」の割合は引き続き10%未満を維持しており、物価上昇への意識はあるものの、やわらぎつつある。

半年後の「物価DI」は+68.0で、現在（+72.8）から-4.8ポイントと再び低下に転じる見通し。



(4) 【耐久消費財の購入】… “(やや)良くなる” 1割を下回り、厳しい状態続く

「耐久消費財の買い時として、今と比べて今後半年間でどうなると思うか」については、「良くなる」「やや良くなる」の合計が8.2%と、前回(16年6月:7.5%)から0.7ポイント増加したものの、引き続き1割を下回った。また「悪くなる」「やや悪くなる」の合計は29.4%で、前回(32.2%)から2.8ポイント減少した。「変わらない」は62.4%で、前回(60.3%)から2.1ポイント増加。依然、厳しい状態が続く。

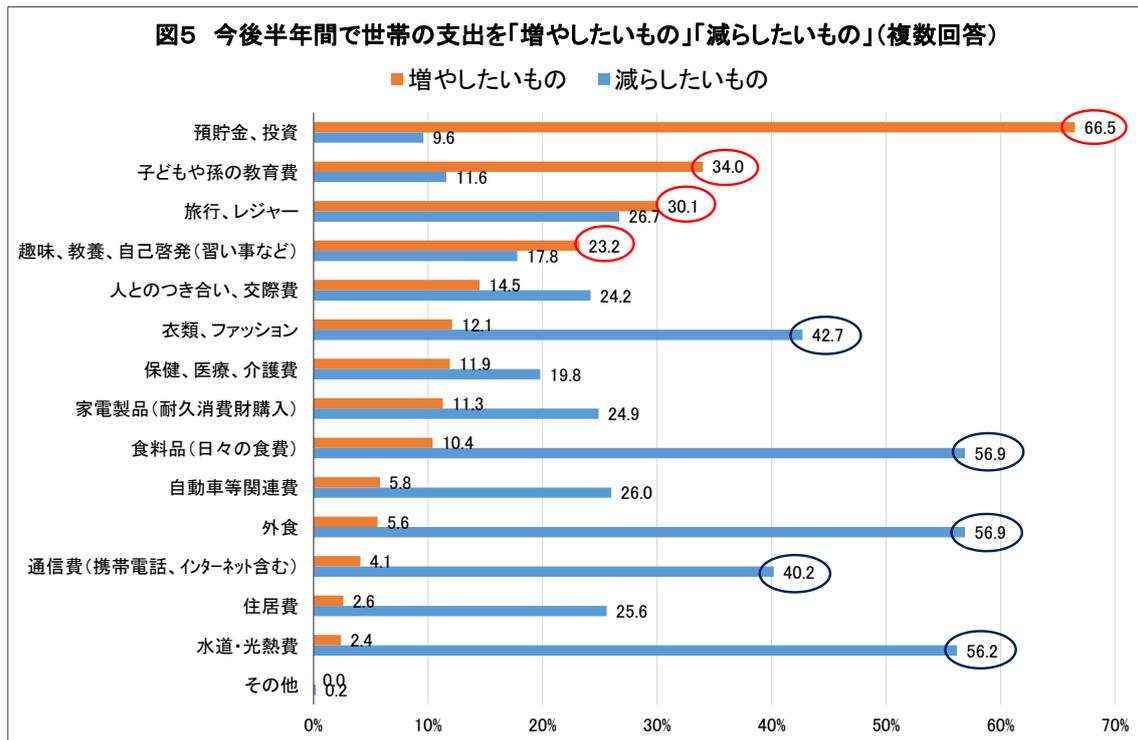


(5) 【世帯の消費行動】…強い「預貯金、投資」志向続く。節約意識は幅広く

今後半年間の世帯の支出について、支出を「増やしたいもの」「減らしたいもの」を尋ねた（複数回答）。

「増やしたいもの」では、「預貯金、投資」が66.5%と飛び抜けて高く、前回（61.5%）同様に6割を超えた。暮らし向きや世帯収入に対する厳しい意識を反映して、貯蓄志向の強さがうかがえる。次いで「子どもや孫の教育費」（34.0%：前回 33.9%）、「旅行、レジャー」（30.1%：前回 28.7%）、「趣味、教養、自己啓発費（習い事など）」（23.2%：前回 25.1%）が続いた。

一方「減らしたいもの」では、「食料品（日々の食費）」「外食」が最も多く（ともに56.9%：前回それぞれ 51.0%、53.4%）、次いで「光熱・水道費」（56.2%：前回 54.8%）で5割を、「衣類、ファッション」（42.7%：前回 41.2%）、「通信費」（40.2%：前回 42.0%）で4割を超えた。日常の生活費から外食といった非日常的なサービスまで、節約意識は幅広い項目にわたっている。



2. 特別項目：インターネット利用とフィンテックについて

フィンテック (Fin Tech)

金融 (finance ファイナンス) と技術 (technology テクノロジー) を組み合わせた造語。デジタルテクノロジーを金融関連の仕組みに活用して新たに先進的な金融サービスを作り出す動き。

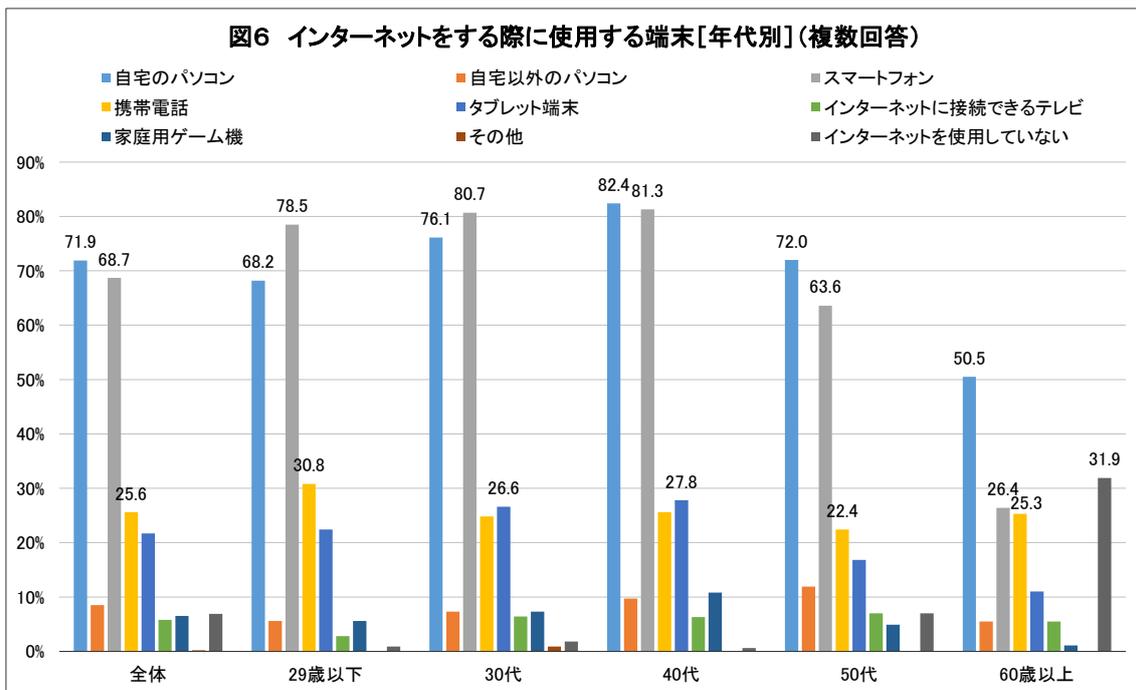
(1) インターネット利用は「自宅のパソコン」「スマートフォン」を併用

インターネットの利用について、どの端末を使っているか尋ねたところ (複数回答)、全体では「自宅のパソコン」(71.9%) が最も高く、次いで「スマートフォン」(68.7%) となった。この2項目が突出した。

年代別にみると、「60歳以上」を除くすべての年代で「スマートフォン」「自宅のパソコン」割合が突出して高く、併用されている。「40代」は「自宅のパソコン」(82.4%)、「スマートフォン」(81.3%) とともに使用割合が全世代1位であった。

「29歳以下」「30代」は「スマートフォン」が「自宅のパソコン」を上回り、若い年代ほどスマホでのネット利用度が高い。「30代」「40代」は他の年代に比べ「タブレット端末」利用が高い。

「60歳以上」では、「自宅のパソコン」(50.5%) が最も高くなったものの、他の年代に比べ低い。次いで多い「スマートフォン」(26.4%) は他の年代の2分の1から3分の1程度にとどまり、「携帯電話」(25.3%) とほぼ同じ割合となった。「60歳以上」のみ「インターネットを使用していない」(31.9%) が他の年代に比べて高く、3割を超えた。

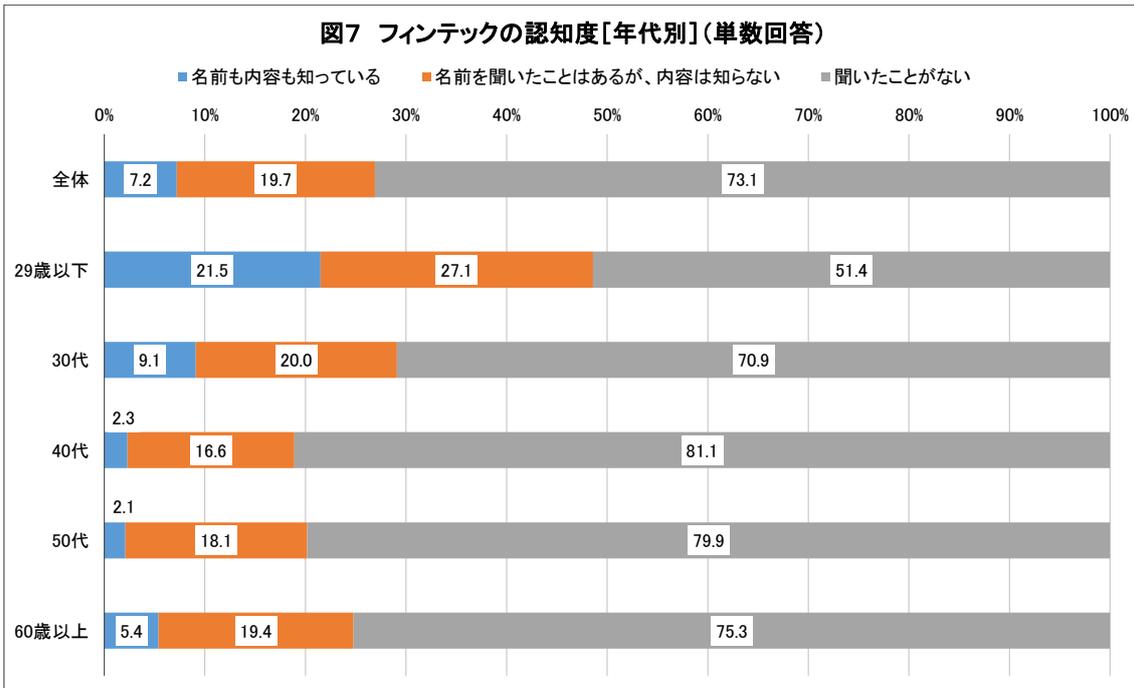


(2) フィンテック「知っている」は「29歳以下」が他の年代を大きく上回る

フィンテックを知っているか尋ねたところ、全体では「名前も内容も知っている」(7.2%)は1割に満たず、「名前は聞いたことはあるが、内容は知らない」(19.7%)と合わせると26.9%となった。

年代別にみると、「名前も内容も知っている」「名前は聞いたことはあるが、内容は知らない」とともに「29歳以下」が最も高く(それぞれ21.5%、27.1%)、いずれも2割を超えて他の年代を大きく上回った。次いで多いのは「30代」「60歳以上」であった。

前問でネット利用度が最も高かった「40代」が、フィンテックの認知度は最も低かった。



(3) フィンテックのサービス、「認知度」は若い年代ほど高く、「利用経験」は「30代」が高い

フィンテックのさまざまなサービスについて、「知っているか」（認知度）、「利用したことはあるか」（利用経験）を尋ねたところ、全体では認知度、利用経験ともに「ネットバンキング」（それぞれ62.3%、39.9%）が最も高く、次いで「送金・決済サービス」（それぞれ45.7%、13.9%）となった。

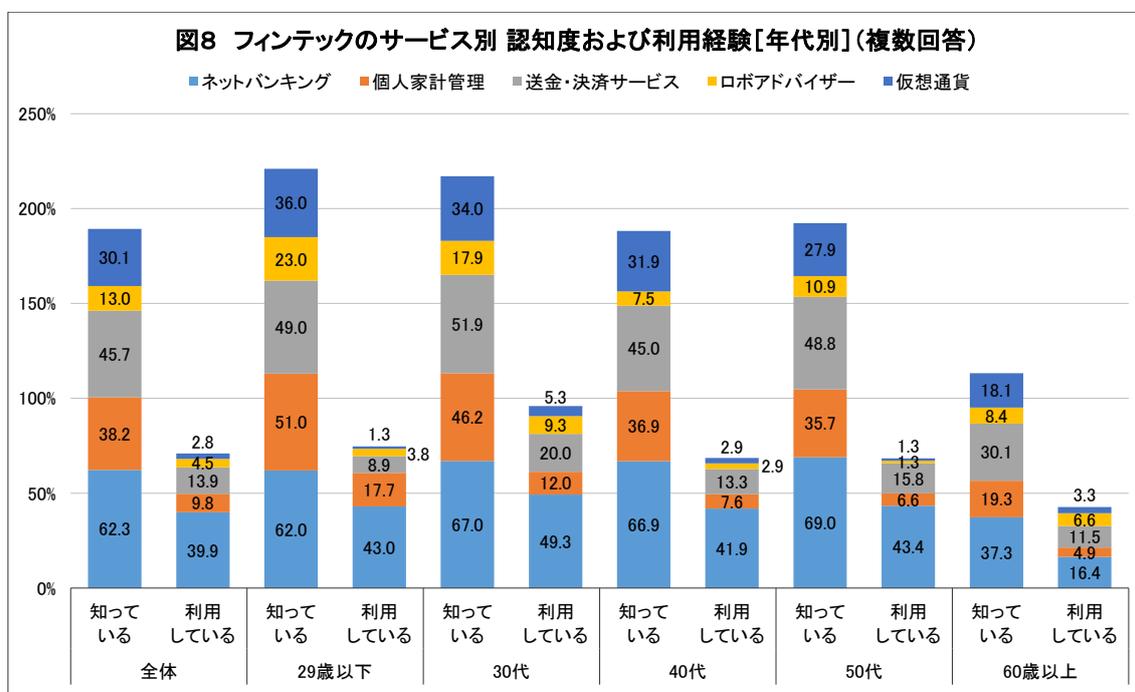
年代別にみると、認知度、利用経験いずれも、すべての年代で「ネットバンキング」が最も高くなった。

認知度では、すべての年代で「ネットバンキング」がトップ。「60歳以上」以外の年代では6割を超えた。次いで高いのは、「29歳以下」を除くすべての年代で「送金・決済サービス」となり、「29歳以下」は僅差で「個人家計管理」となった。

すべてのサービスにおいて、より若い年代の方で認知度が高くなる傾向にある。「60歳以上」はいずれも認知度が低い。

利用経験では、すべての年代で「ネットバンキング」が最も高くなった。「60歳以上」を除くすべての年代で4割を超え、「60歳以上」は2割弱にとどまった。「ネットバンキング」に次いで高いのは、認知度同様に「29歳以下」を除くすべての年代が「送金・決済サービス」となり、「29歳以下」は「個人家計管理」となった。

すべてのサービスを総合すると、利用経験が高いのは「30代」で、「60歳以上」は低い。



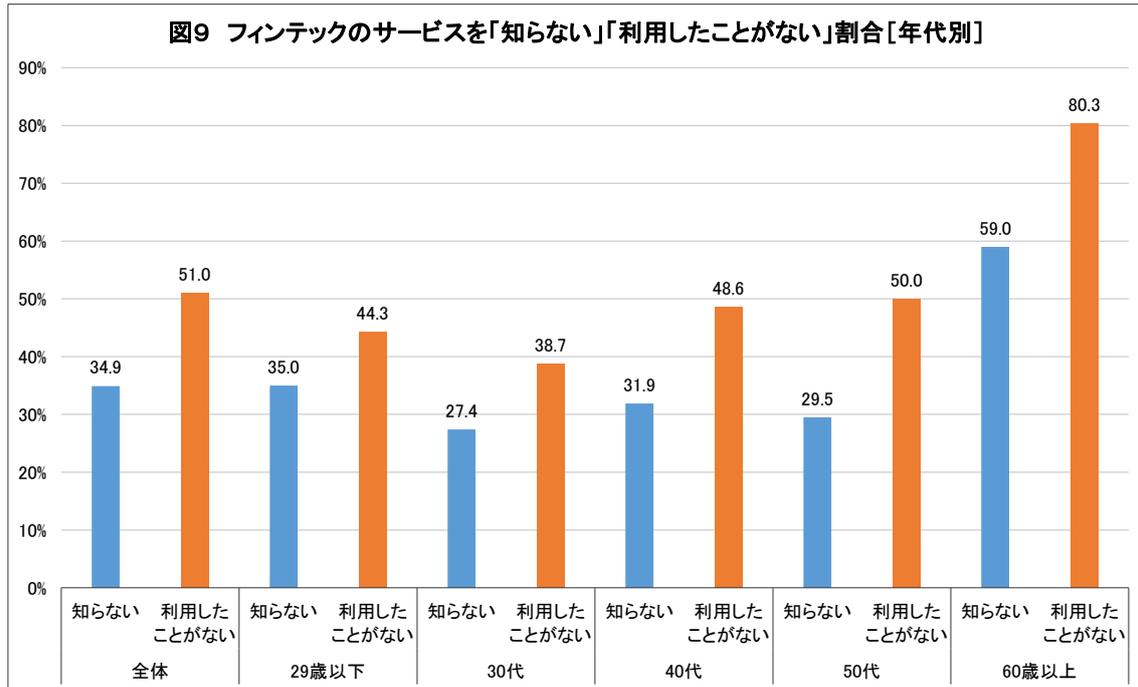
* 選択肢には「その他」もあったが、それを選んだ回答は皆無だったため、グラフ上は割愛した

(4) フィンテックを「知らない」「利用したことがない」は「60歳以上」が特に高い

フィンテックの認知度、利用経験において、「知らない」「利用したことがない」との回答についてまとめた。

全体ではフィンテックを「知らない」(34.9%)は3割超、「利用したことがない」(51.0%)は約5割となった。

年代別にみると、「知らない」「利用したことがない」いずれも、「60歳以上」の割合が突出して高く(それぞれ59.0%、80.3%)、他年代との差が大きい。逆に最も低いのは「30代」(それぞれ27.4%、38.7%)となった。「利用したことがない」割合は、「30代」を底に、年代が上がるほど高くなる傾向にある。



本調査結果に関するお問い合わせ先：(株)しがぎん経済文化センター
産業・市場調査部 長山 (TEL 077-523-2245)